

The image shows the front cover of a book titled '万葉集' (Wakan Shū). The title is written in large, stylized Japanese characters. To the right of the title is a vertical wooden signpost with the word 'はじめての' (Hajimete no) written on it. The background of the cover features a colorful, repeating pattern of stylized flowers and leaves, typical of traditional Japanese textile designs.

日本に現存する最古の和歌集「万葉集」をわかりやすくご紹介します。

vol.
24

急峻な 生駒山越え

ようやく厳しい寒さを抜け、暖かな日差しが多くなってきました。気候が穏やかになると、どこかへ旅に出たくなりますね。現在は便利で安全な乗り物が整備され、誰でも気軽に旅を楽しめますが、古代の旅はとても危険なものでした。家に残した家族と、もう会えなくなってしまうかもしれない旅です。

『万葉集』巻15には、天平8(736)年に新羅へ遣わされた使者たちが、その旅の往還で詠んだ145首もの歌が収録されています。右の歌はそのうちのひとつです。左注(『万葉集』を編纂した人が付けた注)には「しましく私の家に還りて思を陳べ

生駒山はご承知のとおり、奈良県と大阪府との境をなす山です。この山には暗峠越、辻子越、十三峠越などいくつかの山越え道がありますが、奈良時代にどのルートが一般的であつたのか定かではありません。ただ「石根踏む」と詠まれるほどけわしい山道だつたようです。それでも愛しい妻に会うためならば、生駒山を越えて来ることさえもいとわなかつた、と詠む心情のなかに

自宅に帰つてこの歌を詠んだと理解されています。一旦帰宅ができる身軽さから、使者のなかでも下級に位置づけられる人物が詠んだ歌と想像されます。

たる」(しばらくの間家に帰り、妻に気持を伝えたもの)とあります。このことから新羅へ向けて大和を出发したものの、難波津で出航待ちの期間があつたことから、一時大和の

卷之三

The image shows the front cover of a book titled 'Wakan Ōkashū' (万葉集). The title is written in large, bold, stylized characters in red and green. Below the main title, 'vol. 24' is written in white. The background of the cover features a dense pattern of colorful flowers, including red, yellow, and white blossoms, arranged in a circular or radial pattern.

(訳)妻に逢わすにいると何もする術なく、岩石けわしい生駒山を
越えてこそ、私はやつて來た。

遣新羅使人（卷15の三五九〇番歌）

妹に逢はずあらばすべ無み石根踏む
生尚の山を越えてそ吾あくが来る



アクセス

近鉄生駒線南生駒駅下車 西へ約4km

日本の道100選と日本の歴史的風土100選に選ばれてい
る、奈良街道として古来から人
が往来してきた峠。大阪中心部
と奈良を結ぶ最短路で、初瀬・伊
勢参りの人も
通りました。

大和郡山藩が
敷いた石畳が
残つていて、往
時の風情を感
じることができます。

万葉ちゃんの
スポット紹介

